

競 技指導員の資格に準ずる 独自のメソッドを目指す

学生だからこそできることを

現在世田谷区では、ホームページ上で部活動支援員（有償ボランティア）の募集を行っている【資料2】。各中学校が条件を提示して掲載して

【資料2】世田谷区のホームページに掲載されている「部活動支援員」の募集

募集校	部活動	募集人数	募集期間	募集要項	募集方法	募集料	募集場所	募集時期	募集対象	募集条件	募集内容	募集備考
35	サッカー部	10名	10/10～10/20	1. 本校サッカー部員として活動していること 2. 本校サッカー部員として活動していること 3. 本校サッカー部員として活動していること	募集要項	1000円	本校	10/10	本校	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること
40	サッカー部	10名	10/10～10/20	1. 本校サッカー部員として活動していること 2. 本校サッカー部員として活動していること 3. 本校サッカー部員として活動していること	募集要項	1000円	本校	10/10	本校	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること
41	サッカー部	10名	10/10～10/20	1. 本校サッカー部員として活動していること 2. 本校サッカー部員として活動していること 3. 本校サッカー部員として活動していること	募集要項	1000円	本校	10/10	本校	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること
42	サッカー部	10名	10/10～10/20	1. 本校サッカー部員として活動していること 2. 本校サッカー部員として活動していること 3. 本校サッカー部員として活動していること	募集要項	1000円	本校	10/10	本校	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること
43	サッカー部	10名	10/10～10/20	1. 本校サッカー部員として活動していること 2. 本校サッカー部員として活動していること 3. 本校サッカー部員として活動していること	募集要項	1000円	本校	10/10	本校	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること
44	サッカー部	10名	10/10～10/20	1. 本校サッカー部員として活動していること 2. 本校サッカー部員として活動していること 3. 本校サッカー部員として活動していること	募集要項	1000円	本校	10/10	本校	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること
45	サッカー部	10名	10/10～10/20	1. 本校サッカー部員として活動していること 2. 本校サッカー部員として活動していること 3. 本校サッカー部員として活動していること	募集要項	1000円	本校	10/10	本校	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること
46	サッカー部	10名	10/10～10/20	1. 本校サッカー部員として活動していること 2. 本校サッカー部員として活動していること 3. 本校サッカー部員として活動していること	募集要項	1000円	本校	10/10	本校	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること
47	サッカー部	10名	10/10～10/20	1. 本校サッカー部員として活動していること 2. 本校サッカー部員として活動していること 3. 本校サッカー部員として活動していること	募集要項	1000円	本校	10/10	本校	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること
48	サッカー部	10名	10/10～10/20	1. 本校サッカー部員として活動していること 2. 本校サッカー部員として活動していること 3. 本校サッカー部員として活動していること	募集要項	1000円	本校	10/10	本校	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること	本校サッカー部員として活動していること

https://www.city.setagaya.lg.jp/03685/online_tetsuzuki/2008.htmlより

【図1】大学生でも取得できる「準指導者」のイメージ



おり、対象には大学生（大学院生）も含まれている。社会人であれば競技指導者の資格を持っている、過去に指導の経験があるなど、採用する際に客観的基準となるものがあるが、大学生は学歴や競技歴、面接での印象で判断することになる。

そこで近藤准教授が提案するの

「認定を受けた学生を登録

認定を受けた学生を登録してあげばそのまま人材バンクになり、ミスマッチのない円滑な採用が可能になる。同准教授は「スポーツ科学を学ぶ学生には、現場指導は貴重な経験になる。本学部にとっても実践的なカリキュラムとして有効で、学部の魅力づけになるだろう。実はN Uメソッド（仮称）という名前まで考えている」と話す。

競技指導者の資格は、各競技団体や協会の研修などを受けて取得するが、大学卒業が条件になっていることが多い。社会人になれば自由な時間も限られるため、指導者を増やすのであれば学生の方が圧倒的に有利だ。

「生徒と一緒に楽しんで、あいさつやコミュニケーションといった社会性を教えることは学生にもできる。世の中の流れはスバル的な指導より、非認知能力を高める方向に向かっている」と同准教授。

特に本学は学生だけでなくスポーツで活躍した卒業生も数多い。「世田谷区に限らず、本学の強みを広く生かせる。校友会にも協力をいただき、ぜひNUメソッドを具体化していきたい」と意気込んだ。

従来の競技指導者は、優れた技術を持ち、競技者とは距離をとりながら、トレーニングや目標管理を行うイメージが一般的だ。ところが最近では、技術的な指導は控えめに

一緒に競技を楽しんだり、自分で考えることを促すように声掛けをしたりすることで成績が向上する事例が増えているという。

近藤准教授が学生の「準指導者」を勧めるのには別の理由もある。それはスポーツが、協調性や自信など客観的な数字では測れない非認知能力を高める可能性があることだ。

部活動に限らず、スポーツには競技者として技術を高める方向と、気晴らしとして楽しむ方向がある。

Welcome to the laboratory

ようこそ研究室へ

歯科医師として患者を治療する場合には、口腔だけでなく体全体の病態を理解する必要がある。生理学講座は生体の基本的な理解を深めるとともに未解明の研究に取り組み、新薬の開発や治療技術の発展に貢献している。

歯学部歯学科 生理学講座

生理学講座主任教授 篠田 雅路 (しのだ・まさみち)

平成10年東北大学歯学部卒。15年名古屋大学大学院医学系研究科修了。博士(医学)。15年名古屋大学大学院助手、18年University of Pittsburgh School of Medicine, Department of Anesthesiology, Postdoctoral Associate、21年本学歯学部生理学講座助教等を経て令和2年より現職。

口腔顔面領域の異常疼痛の研究では国内最多の論文発表を誇る生理学講座

生理学は、口腔を人体の器官の一部と捉え、全身と関連付けて学ぶ「医学的歯学」の基礎となる学問の一つ。歯学部の学生は、1年次で人体を構成する細胞から臓器および個体に至る各レベルの機能を学び、2年次に口腔や顎顔面領域の機能（口腔感覚、味覚、顎運動、咀嚼、嚥下、唾液分泌、嘔吐、発音など）を学修する。

歯科医師の取り扱う「痛み」は、歯や歯周組織に関係するものだけでなく、顔や顎、顎頸部の痛みも含まれる。歯痛と間違われやすい三叉神経痛や舌痛症などは症状や原因が多岐にわたり、十分に解明されていないのが実情だ。

生理学講座は、口腔顔面領域の異

医学的歯学の基礎を築き 多様な人材が切磋琢磨

世界に通用する意欲ある研究者を育成

常疼痛研究の第一人者である篠田雅路主任教授の下、末梢および中枢神経系における痛みのメカニズムの研究に取り組み、研究成果の臨床への応用を目指している。

現在、同講座には篠田教授を含め4人の専任教員のほか、特任教授、専修研究員、専修医が各1人と12人の大学院生が在籍している。また他大学からの出向者も多く、臨床と並行して研究を行う兼任講師もいるなど、多様な立場の人材が切磋琢磨している。

「専任教員は4人とも口腔顔面領域の研究者。お互いにアイデアを出し合いながら研究の質を高めている。大学院生も意欲的に研究を進めており、口腔顔面痛に関する論文発表数は当講座が恐らく日本一だろう」と篠田教授も話すほど、学外からの注目度も高い。



①週に1度、全員で最新の研究論文に関するディスカッションを行う ②組織学的解析の準備
③生化学的解析の実験の様子 ④ニューロンの画像解析に取り組む



研究者それぞれのテーマで世界を視野に入れた研究を行い切磋琢磨する好環境

生理学講座に所属する大学院生は、修了するまでの4年間で一度は海外の学会で研究発表することが必須となっている。世界に視野を広げ、研究の質を高めることが目的だ。

手術後の神経再生を促す研究

大島絵莉さん（兼任講師）は、おとしに大学院を修了後、臨床医を

やりながら研究を継続している。顎の形を矯正する骨切り手術を行った後、顎の神経が再生するまで痛みが続く場合がある。患者が苦痛を感じる期間を短くするために、神経の再生を促進する方法を探ることがテーマだ。

「臨床医になって基礎医学の大切さを実感した。臨床マインドも持ちながら、将来は研究に専念し、治療に役立つ発見をしたい」と言う大島さん。韓国での学会発表も経験し、海外の研究者からも刺激を受け、実験に取り組んでいる。

臨床と研究の両立を目指す

井手唯李加さん（大学院博士課程3年）は、歯科補綴学第1講座にも所属し、臨床と研究を両立させている。「痛みに関して、臨床だけでなく基礎医学的なアプローチにも関心を持つようになり当講座に入局した」と話す。

研究テーマは、三叉神経の損傷による口腔顔面痛発症メカニズムを解明すること。末梢神経系と中枢神経系の機能関連に着目し「現状は大まかな解析ができたところ」と言いながらも、昨年12月には国内の学会でポスター発表を行い、優秀賞を受賞

帰り、臨床医となって治療と研究を両立させたい」と目を輝かせる。

歯科医療の質の向上のため意欲ある研究者を育成し社会に貢献する

「優秀な臨床医を育成するとともに、歯学の発展を担う研究者を育てることも私の役割」と話す篠田教授。歯学部で学ぶ学生の多くは、卒業後は開業医となる。

「臨床に集中し治療の技術を磨くことも大事だが、それだけで満足せずリサーチマインドを持ち続けることで『考える歯科医』になってほしい」と言葉を続ける。

医療の質の向上が求められる今日、患者のバックグラウンドを理解し一人一人に寄り添う治療を行うには、常に最先端の知識を得ておく必要がある。

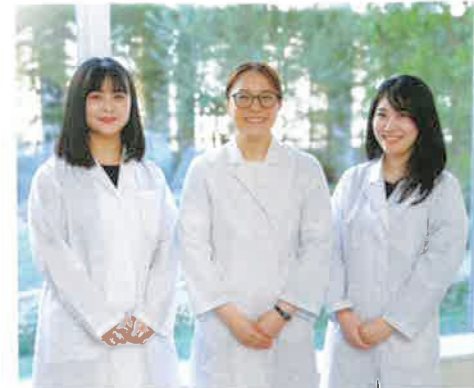
「年に1回、学会発表するだけでも世界とつながることができる。海外の学会で、見知らぬ研究者から声を掛けられ議論するのもエキサイティングなこと。少しでも多くの人にそういう研究人生を送ってもらいたい」と話す同教授。

これからの意欲ある研究者の育成に全力で取り組んでいく。

COLUMN

歯学部歯学科

歯学部の創設は大正5年。創設者である佐藤運雄博士の唱えた「歯学を口腔に止めず、常に全身と関連づけて学ぶ」という「医学的歯学」を校是としている。教育の目的は、歯学の理論およびその応用を教授・応用し、併せて人格を陶冶して有為な歯科医師を養成すること。幅広い教養と総合的な判断力の上に立ち、患者本位の歯科医療に携わることのできる人材を育成する。令和4年に新校舎が完成。併設の付属歯科病院と共に、教育・研究・臨床が融合した都心型キャンパスとなった。



左からシュウ・ゲツさん、井手唯李加さん、大島絵莉さん

した。

大学院修了までに詳細な解析を行い、米国の学会で発表することが目下の目標。大学院修了後もさらに専門的な研究を掘り下げていく予定だ。

海外からの留学生も注目の活気

中国からの留学生シュウ・ゲツさん（同2年）は、中国の大学の歯学部を卒業後、痛みの研究に興味を持ち来日。ネットで調べるうちに「毎年コンスタントに論文を発表し、活気があると感じた」ことから、当講座に入局した。シュウさんのテーマも三叉神経痛。井手さんとは異なる視点で末梢神経の痛み伝達機構を研究しており、同じく米国の学会での発表を目指している。「将来は中国に